

令和4年度第1回北区飛鳥山博物館運営協議会 会議録

日時 令和4年8月8日（月）午後3時00分～4時35分

会場 北区飛鳥山博物館 2階講堂

【出席】

運営協議委員 一君塚仁彦会長、真家和生副会長、吉富友恭委員、有馬純雄委員、
阿久津光生委員、長濱恵美子委員、木下怜委員、
博物館 一野尻浩行館長、鈴木直人事業係長・学芸員、
松本みさお管理運営係長、久保埜企美子主査・学芸員、
山口隆太郎主査・学芸員、牛山英昭主査・学芸員、
安武由利子学芸員、石倉孝祐学芸員、高坂勇佑学芸員、
佐々木優学芸員、田中葉子学芸員、工藤晴佳学芸員、谷口とし学芸員
教育委員会 一清正浩靖教育長

【欠席】

石原淳委員、櫛野治和委員

【事務局】

今後の協議会の進行につきましては議長にお願いしたいと思います。議長、よろしくお
願いいたします。

【議長】 はい、承りました。それでは、よろしくお願い申し上げます。

お手元に配付されている資料をご覧いただきたいと思います。

本日の協議会の議事は、令和3年度事業の報告、これが1点目。それから、令和4年度
事業計画ということになります。議題でありますので、ご承認いただけるかどうかという
ことをお諮りいたします。

まず、令和3年度の実業報告について、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

【事務局】

令和3年度事業報告をさせていただきます。まず1枚目、館利用状況でございます。

昨年、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために4月27日から5月3

0日まで臨時休館をいたしました。ですので、開館日数等も前年よりは少なくなっております。

また、入館者数でございますが、17万3,168名ということになっております。こちら、2年度と比較しますと、かなり飛躍しているところではございますが、2年度もコロナの関係で、通常よりは2年度は少ない状況でございました。平成30年度と比較いたしますと、平成30年度は12万人入っております。それよりも多い入館者数、17万3,168人という数になりましたのは、令和3年度12月まで大河ドラマ館を開催しております、そちらのほうの関係で入館者数が増えたのではないかというふうに感じております。

続きまして、常設展示でございます。常設展示の観覧者数は5万4,960名となっております。平成30年度の実数は1万8,974人で、令和2年度もこれに近い人数となっております。そこで、今回常設展示の観覧者数が増えたことについてですけれども、こちらのほうも大河ドラマ館を観覧された方はそのまま常設展示室も観覧できるため、セットでご覧になる方が多かったというふうに感じております。

続きまして、次のページ、2. 展示でございます。

先ほど申し上げました大河ドラマ館の関係もございまして、通常ですと特別展示室を使いまして企画展等を行っておりましたが、大河ドラマ館で講堂が使えないということもあり、3階にあります飛鳥山アートギャラリー第1室を中心に行っております。

企画展、それから特別展覧会、わくわく展示、学校対応展示、スポット展示、合わせて合計8回、258日間、201営業日でございます。観覧者数は3万1,628名でございます。これらも通常は特別展示室等での開催となる展示となります。平成30年度と比較しますと、平成30年度が5万9,813名でした。通常よりは観覧者数が少ない傾向にございますが、こちらのほうはアートギャラリーのキャパの問題ですとか、会場が3階という条件ということもあって少なかったのかなというふうに感じております。

具体的な展示内容でございますが、企画展、春期企画展「幻想の江戸ー異文化のまなざしに映った他者・表象・言説ー」、こちらのほうは大河ドラマ館が終了した後に開催した展示でございますので、特別展示室・講堂・ホワイエを使って開催いたしました。

続きまして、特別展覧会でございますが、こちらは「第20回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を行いました。通常ですと特別展示室を会場とするところでございますが、飛鳥山アートギャラリー第1室・体験学習室・閲覧コーナーを会場として開催いたしまし

た。

次ページ、4ページ目でございます。夏休みわくわくミュージアム・展示でございます。夏休みわくわくミュージアムは、小学校あるいは中学校の生徒さん、そして親子向けに開催するイベントでございますが、そちらの展示部門でございます。大河ドラマ館が当館に開催していることもありましたので、テーマを「ここがすごいぞ！ 渋沢栄一！」ということで、渋沢栄一をテーマにして、子どもに分かりやすく展示を行っております。

続きまして、学校対応展示でございます。学校対応事業展示でございますが、「来て、見て、知って！ 昔の暮らし」という形で行いました。例年行っているこちらの展示ですが、今回は、展示部門を一般開放という形で土曜、日曜、祝日の午後1時から3時半に一般開放いたしました。ですので、次ページの5ページ目の5番のところ、日数が47日間とありますが、土日・祝日に限定しましたので16営業日というふうに少ない数値になっております。

続きまして、スポット展示でございます。「ASUKAYAMAセレクション5★2021★」ということで、こちらは当館に所蔵されている5点を紹介する展示でございます。

つづきまして、2番「栄一、西ヶ原一里塚に奔走す」とございますが、こちらは、やはり渋沢栄一関連という形でテーマを設定しまして行った展示でございます。

6ページ目でございます。「JOMON土器 VS YAYOI土器—どっちがスキ？ どっちもドキッ！—」というようなタイトルで、飛鳥山アートギャラリー第1室で展示を行いました。この展示ですが、期間終了後4番に同じタイトルで「JOMON土器 VS YAYOI土器—どっちがスキ？ どっちもドキッ！—」ということが掲示されておりますけれども、スポット展示アンコールということで、大河ドラマ館が撤収した後に、春の企画展との間が全く何も特別展示室で開催されていないのもいかなものかということで、急遽夏期にやった展示をそのまま会場を別にして、展示数をさらに増やしましてアンコール展示という形で開催したものでございます。

7ページ目でございます。常展活用展示、これは常設展示室を活用するという展示で、3年度は回想のためのテーマ展示「オボエテマスカ？—懐かしの暮らしの道具—」を開催いたしました。

次ページ目、8ページでございます。ミニ展示ということで、渋沢栄一と北区、こちらもやはり渋沢栄一関連という形でテーマを設定して行ったものでございます。

そして、3番イベントでございます。夏休みわくわくミュージアムを行いました。ただ、

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、講座は一切中止となりました。その代わりと言っては何ですけれども、「おうちでミュージアム」ということで、皆さんそれぞれ、おうちにあるような素材を使って各家庭で工作をしてもらおうというようなことで、キット作りですとか、動画を通じて家で工作してくださいということで、動画づくりも行いました。

続きまして、4. 講座・講演会でございます。こちらは、当初、年間通しまして60講座ぐらいを予定していたのですが、もうこれ全て新型コロナウイルス感染拡大防止のために一旦それは白紙になりました。ただ、コロナウイルスの感染の状況を見ながら何か講座ができないかということで、急遽6講座、10回を開催することになりました。こちらは小規模の講座でして、会場を体験学習室あるいは常設展示室に持ってきまして、開催したものでございます。十分感染対策をしまして、人数を制限し、換気を考え行ったものでございます。通常ですと、60講座、80回ぐらいで、3,000人以上の講座参加者が望まれているのですが、昨年度はこのような形ですので、119名という数値になりました。

続きまして、12ページ目でございます。SNS・YouTubeでございます。こちらのほうも新型コロナウイルス感染拡大の関係もありまして、情報発信に新たな力を入れてみたらどうかというようなこともございまして、SNSを令和2年度より発信しております。また、動画配信も使いまして活動のPRをいたしております。

続きまして、14ページ目、6番、出張事業になります。こちらのほうは、やはりコロナの関係で出張事業の依頼というものが一般講義1団体、4回しかございませんでした。ただ、この1団体というのも、北区役所の職員課の職員研修でございますので、ある意味内輪的なものですので、外部からの依頼というものはございませんでした。

続きまして、7番、団体見学ですが、こちらは合計で39団体、1,377名の観覧者でございました。平成30年と比較しますと、平成30年では、通常では73団体、2,060人の皆様が観覧に訪れましたけれども、それに対してはかなり減った数でございます。この団体見学に関しましては、希望がございましたら学芸員が対応するというところでございましたが、コロナ期間中は基本的に、少人数に分かれてご自由に見学していただくということで実施しておりました。

続きまして、18ページ目でございます。学校対応・支援事業でございます。先ほど展示部門のところでご説明いたしました「来て、見て、知って！昔のくらし」、先ほどの説明は展示室の一般開放のことでしたが、もともとはこの学校対応事業ということ

で、小学校中学年の社会科の単元「古い道具と昔の暮らし」に対応する事業でございます。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、本来ならば、来て、見て、触ってということで、昔の道具に触っていろいろなことを感じてもらうことが主でしたが、今回は展示資料に触れずに、見て調べるような形を取りました。2年度は体験事業を一切行いませんでしたが、令和3年度はひとつ試みとしてやってみようということで、「せんたく体験」を行いました。

続きまして、19ページ目です。小・中学校支援事業ということで、出張授業ですが、中学校職業紹介「田端中ハローワーク」というものに参加いたしました。将来の進路決定の参考となるように、いろいろな職場の人が中学生1、2年生に向けて、こういう仕事があるということを紹介する事業で、博物館の学芸員の仕事というのはどういうものなのかということの説明に向かいました。

また、中学校職場紹介というものもございまして、こちらのほうは、職場体験が中止になった代わりとして、学芸員が学校に行きまして博物館の仕事についてお話をさせていただきました。

また、2番、職場体験ですけれども、中学校2校、4名、職場体験として生徒さんが当館で体験を行いました。

続きまして、20ページ目です。高等学校・大学支援事業でございますが、こちらは1校、東京都立王子支援学校の生徒さんが、同じように職場体験を当館で行いました。また、高校ですけれども、インターンシップとして東京都立飛鳥高等学校の3名が当館の学芸業務を行っております。

続きまして、21ページ目です。教員支援事業ということで、学校の先生が中堅教諭の資質向上研修ということで、当館に夏の時期に研修として参加していただきました。

続きまして、9番、学芸員実習でございます。令和3年度は4名の博物館実習として実習生を迎え入れて、2週間の中で博物館業務を体験していただきました。

続きまして、同じく学芸員実習ですが、22ページ目でございます。見学実習でございます。こちらは通常ですと、大学から見学実習ということで、実習生が当館を訪れましてバックヤード等をご案内するのですが、やはりコロナの関係もございまして、遠隔講義という形で、画面を通じて学生さんに当館の事業等の案内をいたしました。

23ページ目、資料の貸出しでございます。貸出件数が6件、そして貸出点数が240点でございます。令和2年度の4件、46点から貸出点数が飛躍的に大きな数字でござい

ます。実は、こちらは次ページにございます4番東京都江戸東京博物館におきまして、特別展「縄文2021－東京に生きた縄文人－」というものが開催されまして、そちらに数多くの北区の遺跡から発掘調査で出土しました資料が貸出しということになりましたので、非常に例年よりも多くの資料を貸し出していることとなりました。

25ページ目、資料の利用でございます。利用申請件数は55件、利用件数は110点でございました。

続きまして、33ページ目、資料の収集でございます。寄贈資料ですが、受入件数が1件、資料件数は42点の寄贈がございました。

そして、34ページ目、購入でございます。購入資料に関しましては、17件、17点を購入させていただきました。

35ページ目、資料の保全でございますが、環境調査を管内各所で行いました。これは虫害・カビの現状を把握して、防除策を総合的に検討するために行ったものでございます。

そして最後、36ページですが、燻蒸を行いました。通常ですと6月の末から7月の初旬にかけて燻蒸を行っていたのですが、その期間は大河ドラマ館が開催されているということで、休館日を設定することが非常に難しいという状況にございましたので、大河ドラマ館が終了したその後の3月5日から3月14日にかけて、下の収蔵庫全体の燻蒸を行ったところでございます。

以上、雑駁でございますが、ご説明でございます。

【議長】 ご説明ありがとうございます。かなり細部に及ぶものですが、幾つかの柱立てに従って分かりやすくご説明いただけたと思います。ありがとうございます。

それでは、ただいまの報告をお聞きになられまして、委員の皆様からご質問、ご意見を賜りたいと思います。

ご発言いただきたいと思いますが、もしご質問、ご意見等がおありの方、いらっしゃいましたら挙手をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。どの角度からのご質問でも結構です。いかがですか。

では、委員A、よろしく願いいたします。

【委員A】 ご報告ありがとうございます。

12ページの各種SNS、YouTubeという実施概要ですけれども、Facebook

o kのフォロワー数のところが数字がないのですけれど、これは具体的にカウントできないでしょうか。

【事務局】 昨年度、F a c e b o o kなどのSNSを担当しておりました学芸員です。

こちらのF a c e b o o kのフォロワー数がカウントされていないのは、F a c e b o o k友達申請ということで、申請を受けた後、許可をしていくと友達の数が増えていくというカウントをしていると思うのですけれども、当館のF a c e b o o kのアカウントは、情報を公開するだけにしておりますので、申請を受けても、今は許可をしていない状態になっています。なので、公開している情報をただ見ていただくだけということになっているので、フォロワー数を明記していない状況になっております。

【委員A】 ありがとうございます。フォロワーという登録もできるような設定もできると思うのですけれども、友達申請ではなくてフォローするという。組織によってはそういう設定もできると思うのですが、もしそういうことができれば、数をカウントし、F a c e b o o kでしたらリーチ数といって、どのぐらいの人たちに情報が届いたかということも分かると思いますので、何か少し設定を変えればその効果が確認できると思いました。

【事務局】 ありがとうございます。ちょっとまだ勉強不足なところもございますので、またいろいろ調べながらやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。ぜひご検討ください。

ほかに何かありますでしょうか。

はい、よろしくお願いたします、委員B。

【委員B】 ご説明ありがとうございました。

二つありまして、前半に書かれている各種展示のところに細かく観覧者数、記載いただいていますけれども、これ、人数だけじゃなくて年齢構成比みたいなものは何かデータがあるのでしょうか。

もう一つは、今、ご質問にもありましたけれども、SNSの運営ですけれども、こちらは職員の方が持ち回りでやられているのでしょうか。

【事務局】 まず、一つ目のご質問でございますが、年齢構成ですけれども、実はアンケートを、各展示をするときには取っております、その中で10代、20代、30代ですかそういったような形で取っております。ですので、そちらの集計をすれば、この展示、何歳ぐらいの人が多く見られたとかということはお示しすることは可能かと思えます。

それとSNSに関しましてですけれども、まさしく学芸員が持ち回りでいろいろ担当して、それでつぶやいているところでございます。

【委員B】 ありがとうございます。

一つ目の年齢構成比は、それぞれの展示がどの辺の年齢の方たちに多く見られているのかというのを単純に知ることができると、参考になると思い質問しました。

二つ目のSNSに関しては、実は、私もTwitterとInstagramはフォローしているのですけれども、いつも楽しみに見ており、もうちょっと投稿してくれるとありがたいなと思っていたのですが、持ち回りということなので、皆さん、業務の傍らでやられていると思うので、無理のない範囲で発信していただくと、SNS本来の使い方が発揮できるのかと思いました。

【事務局】 ありがとうございます。SNSはなるべく旬な状態で情報発信するということの方が分かっていますので、なるべくその旬を逃さないような形でこれからもやっていきたいと思えます。

【議長】 的確なご指摘、ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

すみません、よろしくお願いたします、委員C。

【委員C】 うちの学校でも学芸員さんに来ていただいて、学芸員さんはどんな仕事なのか、また博物館学など、何か子どもたちからすると、ただ職場体験だけだと、何か図書館に行ってもどこへ行っても同じような感じだったかと思うのですけれども、そこを本当に「学芸員さんというのはこういう仕事なのか」ということを、子どもだけじゃなくて教員も学ぶことができ、本当にありがたかったです。

また、職場体験とは別にそういう事業をしていただければ、本当にありがたいなというふうに思っております。どうもありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

はい、お願いいたします、委員D。

【委員D】 私も、このSNS、ちょっとフォロワー数が少なくてびっくりしたんですけど、東京都とかもいろいろやっているのですが、役所のホームページはなかなか入ってきてくれなくて、多分どこの自治体も苦勞しているところなのかなと思います。

北区飛鳥山博物館のホームページを拝見させていただきましたが、割と普通な感じがして、例えば、動画とかをもうちょっと入れるとか、子どもさんが見てもすごく楽しいものになっているとか、委託されているかどうかはちょっと分からないのですけれども、何かホームページのことをもう少し検討するといいいかなと思いました。私も、おそらく全部展示を見ていると思うのですが、すごくいい展示をしていて、よく通るので必ず見るようにしているのですが、ホームページとかで発信されていると、少し遠くの方とかも足を運ばれると思いました。よろしくお願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。今SNSのほうに力を入れ始めているのですけれども、当然ながら、いろんな発信のツールというのは大切にしていかなければいけませんので、ホームページもぜひもう少し工夫を凝らしながら、皆さんに見ていただけるような形にしていきたいと思っています。

【議長】 ありがとうございます。大変重要な指摘だと思います。

ほかにございませんでしょうか。

委員E、何かございませんか。

【委員E】 特にございません。

【議長】 委員F。

【委員F】 資料の購入のところで、35ページの8番から13番まで洋書が入っていますが、これはどういう資料なのかを、教えていただければと思います。

【事務局】 春の企画展を担当した学芸員です。

今、委員Fよりご質問のとおりでございます。当館でも既にフランス語の資料で幕末にこの地域で起きた人々の紀行文などの、収集を行っていたのですが、その後の研究によって、例えば、タウンゼント・ハリスであるとか、英米系の方もかなり来ているようです。さらに、エルギン卿関連にしてもいろいろな日記類も出ているということが分かりまして、値段も非常に低廉でもありましたので、企画展で活用して情報公開していこうと思いついて購入した次第でございます。

以上でございます。

【委員F】 ありがとうございます。ドイツ人の人もかなり幕末には来ていると思うのですが、そういう資料もありますか。

【事務局】 ドイツ人もありまして、ハイネというペリー艦隊と一緒に来た絵描きの方なのですが、あるいはヒュースケンもそうですし、それ以外にも何人か、リヒトホーフエンであるとか、地理学系の人物、あるいは地質学に関連する知見を持っている方、こういった方々ドイツ系の方でいらっしゃいまして、これも一部は購入をしております。

【委員F】 ありがとうございます。そういう資料も充実をしていくとすばらしいと思います。ありがとうございました。

【議長】 ありがとうございます。

それでは、ほかに特段何かご質問、意見等ありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、他にご質問、ご意見等がございませんようでしたら、拍手でご承認いただけますでしょうか。いかがでしょうか。

(拍手)

【議長】 ありがとうございます。それでは、令和3年度事業については、この報告のとおり承認をされたということにいたします。

続けて2点目の議事に参ります。令和4年度の事業計画について、事務局からご説明をお願いいたします。

なお、4年度事業計画については、前回、令和4年3月23日開催の令和3年度第2回の運営協議会で既にご承認をいただいております。また、新しい委員の方も今日いらっしゃいますので、改めてご説明をお願いいたします。

それでは、ご説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、令和4年度北区飛鳥山博物館事業計画のご説明をさせていただきますと思います。

1 ページ目にございますように、令和4年度の展示・イベント・講座・講演会の事業計画のポイントでございますが、令和3年度は大河ドラマ館が開催されていたために、以前の展示・講座の在り方とかなり変わっておりました。また、新型コロナウイルス拡散防止のこともありまして、講座類がほとんど中止になり、6講座ほどしかできなかったところでございます。まず、展示業務は大河ドラマ館を開催していた特別展示室を使つての展示ということの元の状況に復帰いたしました。

また、(2) 講座・講演会事業ですが、講座数ですとか講座内容ですとかそういったものは通常の状態に戻します。しかし、まだまだ新型コロナウイルス拡散防止を講じた安全安心な講座を工夫する必要がございますので、会場のキャパシティーを考えて、通常50%を基準にしております。

野外講座に関しても、通常よりも少ない人数を設定しております。また、野外講座におきましては、ワイヤレスガイドシステムを用いて、距離を保ちながら講師の話を聞くことができるようにというような工夫をして、運営を常にしていきたいというふうに考えております。

展示・イベント・講座・講演会の事業数ですけれども、展示関係は、企画展3回、特別展覧会1回といったような形で、合計9回を予定しております。

イベントに関しましては、夏休みわくわくミュージアムを1回予定しております。現在、夏休みわくわくミュージアムを開催しているところでございます。

講座・催し物に関しましては、73講座、92回を今、予定して、そして実施しているところでございます。

2 ページ目でございます。具体的な展示でございますが、企画展は、春、秋と3回を予

定しております。そのうち1番の春の企画展というのは、令和3年度の春期企画展の延長と申しますか、全体の会期が年度をまたがっておりますので、3月23日から5月14日という形で開催という形になっております。秋の企画展、そして来年春の3月からの春期企画展という形で、企画展3回を予定しております。

3ページ目でございますが、特別展覧会を1回、「第21回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を9月の会期で行う予定でございます。

そして、夏休みわくわく展示でございます。もう既に7月21日から8月28日にかけてまして、わくわくミュージアム★2022「メイド イン 北区を探せ！」がもう開催中でございます。この運営協議会が終わりましたら、展示会場へご案内いたしますので、そちらのほうをご覧になっていただければというふうに思っております。

また、学校対応事業展示1回でございます。「来て、見て、知って！昔の暮らし展」ということで、例年のおり1月から2月にかけて開催する予定でございます。こちらは新型コロナウイルスの状況を見まして、展示を中心とするものがひとつ、また、昔の道具体験に関しましては、感染拡大防止など、状況を見ながら考えていきたいと思っております。

続きまして、4ページ目でございますが、スポット展示が1回、これはもう既に開催いたしました。

そして、常展活用展示ということで、常設展示室の中で展開する展示を2回開催しております。

続きまして、5ページ目のイベントですけれども、こちらのほうは、先ほどご説明いたしましたとおり、夏休みわくわくミュージアムを現在、開催しております。

講座・講演会に関してですが、一般向け講座が48講座、53回を開催中でございます。この中で新型コロナの関係もございまして、野外講座を全体の中で16講座設ける形で、今、進めております。

そして、その講座の中で11ページ目でございます。11ページ、2点目ですが、最近、鉄道開始150年とか、いろんな周年的な話題がありますけれども、西ヶ原一里塚の史跡指定が100年というようないち節目の年でございます。板橋区の文化財係様と共同事業という形でこれらを進めていこうと計画しております。

そのほかは、今までの継続講座、それに加えて新規講座という形で一般講座48講座を予定しているところでございます。

続きまして、18ページ目でございます。こちらのほうは展示関連講座、7講座、9回

ということで、展示解説ですとか、それから、特別展覧会に附帯する事業として講座を開催する予定でございます。

続きまして、20ページ目でございます。夏休みわくわく講座、18講座、30回でございます。こちらは、感染拡大防止ということで、キャパを50%というふうにお示ししましたが、通常ですと、体験学習室を使いますと、親子2人で参加するような講座ですと、16組、32名が定員でございます。ですので、その半分ということで8組、16名を基準にしております。

ただそうしますと、例えば、勾玉づくり教室ですとか、土器づくり教室というのが非常に人気講座でございます。通年よりも半分のお子様の参加になってしまいますので、もう少し増やせないかということで、1人でチャレンジコース、21ページ目の、例えば6番のところがございますように、夏休みの勾玉づくり教室ですが、1人でチャレンジコースということで、小学校の高学年、5年生、6年生、そして中学生を対象として開催することをちょっと試験的にやっております。そうすると、子どもが16名の参加ができますので、そういう形で今回、試みております。

また、そのほか、夏休みわくわく講座の中で新規講座としましては、例えば、24ページ目でございますが、17番「和綴じメモ帳をつくってみよう」、こちらは今年初めて行う講座でございます。それから、18番「スケッチ!あすかやま博物館」、こういった工作のものではない講座も試みとして行う予定でございます。

25ページ目の学校対応・支援事業でございますが、先ほど展示のところでもお話ししましたように「来て、見て、知って!昔の暮らし」を行う予定でございます。それから、体験授業、勾玉づくりや土器づくりなど、体験学習室で行う事業に関しましては、学校様のほうからの依頼に応じまして実施をするという形で進めてまいりたいと思っております。出張授業に関しても同様な形で進めていきたいと思っております。

26ページ目でございます。各種SNS・YouTubeでございますが、こちらのTwitter、Instagram、Facebook、YouTubeについて予定を組みながら、各学芸員が投稿していく予定でございます。

27ページ目、6番、学芸員実習でございます。こちらは、8月9日、明日から2週間で博物館実習を予定しております。大学生4名が参加予定でございます。

見学実習に関しましては、既にお申込みをいただいた学校もございまして、実際に当館で実習を行っております。

続きまして、28ページ目でございます。出張事業、回想法プログラム「昔の道具で思い出がたり」でございますが、こちらもお依頼に応じて実施するという体制です。一般講義に関しても同じ形で考えております。

8番、団体見学でございます。こちらは、新型コロナウイルスの状況を見ながらの実施でございますが、今のところ、数的にはあまり多くはないですけれども、徐々に団体見学もでございます。

そして、29ページ目の9番、資料の貸出・利用でございますが、こちら、資料の貸出しを依頼に応じて実施しております。昨年は6件ありましたが、今年は既に4件ございます。

最後、30ページ目でございますが、資料の収集は資料の寄贈、購入に関しては、例年どおり進めてまいります。

また、資料の保全でございますが、環境調査は既に実施いたしました。燻蒸ですけれども、令和3年度は3月に行われ、通常同じ程度、1年間隔を空けて行うのが本来ならばいいんですが、今回は通常のローテーションに戻すために、3月から7月の期間、あまり空けてはいないのですが、7月2日から10日に実施いたしました。

以上、令和4年度の事業計画についてのご説明でした。

【議長】 ありがとうございます。この3年間はコロナ禍でございまして、その中で全国の、特に東京をはじめとする大都市の博物館は非常に苦心をしております。その中で、また先ほど報告の中にありましたが、SNSのような、あるいはYouTube発信だとか、それまでの地域博物館では見られないような事業展開も見られているということも事実でございます。

令和3年度の報告でもありましたように、入館者数が激減するなど苦勞があります。令和4年度はそれを徐々に戻しつつ、これまでのベーシックというところかなりハイレベルな活動を展開している博物館ですけれども、それを行いながら、また新たな事業展開の試みが、垣間見えるご報告だったと思います。

それでは、以上のご説明に対しまして、ご質問、ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。挙手をお願いできればと思います。どんな角度からでも結構でございます。よろしくお願いいたします。

委員A、お願いします。

【委員A】 ありがとうございます。大変魅力的な講座や行事をたくさんご紹介いただきましたが、例えば、学校のほうで昔のくらしをテーマにいろんな見学や学習をしたりしたときの成果ですとか、あと、回想法で抽出できたような情報とか、あるいはいろいろな作品を作られたときの成果、それをまた展示に生かしているということは、何かされていますでしょうか。

【事務局】 成果を展示生かすという部分ですと、当館で実施した夏休みの土器づくり教室などを、返却する期間を空けて展示するなどは、過去にはございました。ただ、学校対応事業に関する成果を、博物館展示にフィードバックという形として展示などに生かすというのは、これまで試みてないものですので、これから考えて取り組んでみたいと思っております。

【委員A】 ありがとうございます。何かいろいろな新しく出てきた情報をまたさらに展示に反映して、展示を更新し、地域の方の情報が展示されていくようなことがあれば、またその方も、もう一度見学にいらっしゃると思いますし、その人が見せたい人を連れていらっしゃるかもしれないので、何か新しくそういう行事の成果を展示に反映していくような試みも面白いと思い、ここで質問しました。ありがとうございます。

【議長】 よろしいですか。

大変重要なお指摘だと思います。ぜひご決定いただければと思います。

ほかに何かございませんでしょうか。

よろしくお願いたします。委員E、お願いたします。

【委員E】 ありがとうございます。落とし込みどころを申し上げますと、具体的な話になってしまうのですが、北区ニュースにこの北区飛鳥山博物館の定期的なコラムを設けることはできないかと。それはもう広報課云々という話になって、「いや、そんなことは難しい」と言われるかもしれませんが、北区民として、立派な北区飛鳥山博物館の存在感を常に目にさらすということは必要ではないかと思っております。北区飛鳥山博物館で定期的に何かをやっているというように見せつけることがあれば、おのずと目がそこに行く

可能性も高くなって来るだろうと。それがきっかけとして「じゃあ、行ってみようか」となってくるのではないかということで、結論を言うと、そういうことです。

なぜかというところですが、「長生きするなら北区が一番、子育てするなら北区が一番」と言うのであったら、「生涯学習するなら北区が一番」くらい言ってもいいのではないかと。最近思いました。

その拠点、生涯学習の拠点という北区飛鳥山博物館であるなら、その存在というのは、多くの区民の方々が「あそこはいつ行っても同じようなものだ」というようなことを抱かずに、何か面白いことをやっているなということを感じさせる、気がつかせるような機会を設けていくのもいいのではないかなと思います。さらに詳しいことを知るのであれば、SNSを常に最新の内容に更新する。そういった情報発信との結びつきも必要ではないかと思います。

先だって北区基本構想の中間まとめを見させていただき、その中で「生涯にわたって多様な学習機会を活用して、誰もが主体的に学び、学んだことを生かして地域で活躍します」と一文があります。全くこのとおりでして、これから高齢社会になって人生を振り返ったときに、中高年、特に私もそのど真ん中にいるのですが、歴史をベースにしながら自分の人生を思い返すということは、何かあるとき突然やってくるのですよね。

そんな機会に、この北区飛鳥山博物館は非常に重要性があるのではないかなと感じていまして、たかだか人生数十年であります、歴史は何千年とあって、その物差しの中に自分を改めてあてはめて見ると、何か面白いことが出てくるなど。単純な話かもしれませんが、何かその機会として普通の方でも興味を抱かせるような場であってほしいということで、この北区飛鳥山博物館、郷土資料館としてはとても北区民にとって大切なものになってくると思います。

少し雑駁な話になってしまいましたが、先ほどご提案させていただいたように、厳しい広報課の門をくぐらなくてははいけませんが、私も何か身近な存在として知っていますが、門をかいくぐって、何か1ページでも、1ページだと本当に限られた部分かもしれませんが、何かありましたらと思いました。

意見とさせていただきます。

【議長】 ありがとうございます。何か一言ございますか。

【事務局】 ありがとうございます。実は、我々、講座を開催するときに、ホームページだけではなくて、当然、広報紙の北区ニュースですとかそういったところで講座の募集をかけております。それでアンケートとかを取りますと、やはり北区ニュースを見て応募したという方が非常に多いというのは、もう常に感じているところでございます。ですので、SNSですとか、そういったものが今、大分普及はしているということが分かって、やはり不特定多数の人が見るような状況に一番効果があるということも、感じているところでございます。ので、広報課がどのように回答するか分かりませんが、そういったことも心がけながら、やってみたいと思います。

【議長】 これ大変意義のある、実現してほしい意見いただきまして、ありがとうございます。ほかに何かございませんでしょうか。お願いいたします。

【委員B】 委員Eがおっしゃった北区飛鳥山博物館の名前を出す機会が増えるということが非常に私も重要だと思っています。北区ニュースは、そういった意味では、私も毎回、毎号細かくチェックをしていますし、一般公募もそれで応募したぐらいなので、非常に効果は高いかなというふうに思います。そういった意味でも、SNSは非常に重要かと思えます、多分、今日はSNSの話題が多いのだと思うのですがけれども、投稿をなるべく増やし、ユーザーフレンドリーな雰囲気をつくっていくということは非常に大切な一歩かと思えます。

あと、人目にさらす機会を増やして呼び寄せるわけですが、インフラとしての北区飛鳥山博物館はもう既に十分に完成されているといいますか、十分に立派なものを持っていると思いますので、むしろ呼び込んでくるのが非常に重要だと思っています。

そのような意味でSNSが非常に重要と思っていますというのが一つと、一般公募のときにも私は書かせていただいたのですが、私は趣味で散歩やランニングをしていたときに、北区の史跡を巡ったりするのですが、そういうときに説明板や、説明を書いている柱みたいなものがあったりして、それを必ずチェックしたりするのですがけれども、結構はげたりして文字が読めなかったりしています。

そういったもののメンテナンスですとか、あるいは情報のアップデートというか、例えば、この説明板ではこれだけの情報しか載せられないけれども、もっと詳しい情報や関連する資料なんかは北区飛鳥山博物館に行けば見られるよというような、そういった追加

の情報みたいなものを改定というか、追加していく取組は、何かほかの部署が担当なのでしょうか。ちょっとハードルが高いかなとも思うのですけれども、そういうことができるといいかなと。リアルと博物館の還流みたいなものができるといいかなと思いました。

すみません、少し長くなってしまいました。

【事務局】 SNSにつきましては、まさに投稿をどんどん増やしていこうということで尽きると思います。

解説板につきましては、町の中の史跡などの解説板は、担当部署が北区飛鳥山博物館の事業係でございますので、そこで予算を取りまして、毎年傷みの激しいものを、順番に修理しております。ですので、一度に10、20修理というのができないのですが、その中でも全体的に改定しなければいけないものは改定するなどの措置は、取っております。

あと一つの試みとして、二次元コードを解説板につけ、スマホでほかの情報を見ることができるなど、その中に詳しくは北区飛鳥山博物館でとか、例えば、遺跡みたいな場所でしたら、その出土資料は博物館に行けば見られるとか、そういうようないざなう形もちやり始めたところでございますので、そのようなことでもう少し補っていければと思っております。

【委員B】 ありがとうございます。二次元コード、そういえば、たしか西ヶ原の一里塚には貼ってあったと思いますけれども、非常にいい試みだったと思いますので、ぜひほかにも予算の許す範囲で続けていただければいいと思いました。ありがとうございます。

【事務局】 委員ご指摘のとおり、随時補修をしていくのですけれども、補修する際にさらに文字数ですとか、少し小さくなったりする場合もございますが、なるべく昔の街道筋を表すような絵図ですとか、錦絵、あるいは一里塚のところだと、大正時代の様子の写真、そういったビジュアルとしても目を引くようなものを、文字数によっては入れにくい場合もありますが、なるべく工夫し、二次元コードや、補い切れない情報を特に入れるような工夫をしながら、単に今までのものを新しいものと替えてではなく、そのような工夫はちゃんとさせていただいて、今後も続けていきたいと思っております。

【委員B】 ありがとうございます。

そういえば、二次元コードで思い出したのですけれども、一つ、鎌倉にこの間行ったと

きに北条義時の墓に行ったら、二次元コードで読み込んで、そこからアプリストアに行って、そのアプリを無料でダウンロードすると、平野部でその当時の義時の屋敷とか目の前に出るといような仕掛けがありました。多分それは、非常に予算が厳しいと思うのですが、ただ、それもたしか地元の大学か何かが協力して、恐らくかなり低い価格でやったのではないかなというように思いますので、可能性があれば、そういったこともチャレンジしていただくと面白いかなというように思います。ありがとうございます。

【議長】 ありがとうございます。有用なご意見です。ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

委員D、よろしくお願いたします。

【委員D】 何かこれを見ていると、言うことがないぐらいすばらしいなと思います。それで、こんなに講座を何十回もするって非常に大変なことだと思います。それで工夫されていて、勾玉とか土器づくりに関しても、人数が少ないのを何回もやるとか、もうすばらしいと思います。実際、倍率がすごいと思います。楽しいですね、勾玉を作るとか。本当にこの努力はすばらしいなと。

何か言うことはないかなと頑張って探したのですが、本当に満遍なくいろんな年代、男女、いろんな工夫されて講座をやっているのですが、一つちょっと足りないなと思ったのが、飛鳥山は、例えば、パパと本当に小さいお子さん連れてくる方、非常に多いですね。小学生よりも下の、もうちょっと下の年代ですね、幼稚園生とか。3歳児ぐらいからですかね。そういう子たちと、例えば、パパでもママでもいいのですけれども、何か家族でできるみたいな講座があったらいいなと思ったのと、あと、昨今はやりのSDGs的なものですね。そういう文言の何かないかと思ったのですが、ちょっと絞り出してこれぐらいしか見つからなくて、本当にすばらしいなと思いました。

あと、多分北区全部に言えるのですが、講座の申込みが往復はがきですね。恐らくメールとかでやると誰でも応募ができてしまって、突然、講座に申し込んだのに来ないとかという無責任な方も多いのかなと。往復はがきだと、それなりにちゃんとしっかりやりたいという方が多くて、北区はもしかしたらそういうのが残っているのかなと思っているのですが、今後、例えば、メールとかそういうので申し込むということを考えていらっしゃるかどうか、その辺をちょっとお伺いしたいなと思いました。

【事務局】 まず、後半の申込みに関してですが、やはり往復はがきを主流にしていたのですが、最近、電子申請で申し込む形を少しずつ増やしていこうということで、それまで電子申請自体が登録制でした。それが非常に難しいのと、単独の電子申請ではなくて、いろんなほかの申請と同じような形でやっていたものですので、あまりなじんでいない状況だったのですが、それが個別に電子申請ができるようなことになりましたので、そういったのをもう少し増やしていこうという形で、往復はがきに偏らずに、今考えているところでございます。

前半のほうの子ども向けですとか、そういったものに関しては担当が述べますので、ちょっと代わります。

【学芸員】

今年度の事業計画にも12ページ、13ページのところで、未就学児向けの講座として体験講座を二つ予定いたしております。ちびっこ体験講座ということで、「どんぐりでおもちゃをつくろう！」と、それから30番の「おちばでメッセージカードをつくろう！」というもので、特に25番の「どんぐりでおもちゃをつくろう！」のほうは平成27年頃から継続して行っているもので、やはり博物館の利用者を見たときに、ほとんどが高齢者の方が多くて、子育て世代の方の利用が少ないというところは問題としてあるなというふうに感じておりました。

ですが、博物館が公園の中にあって、公園自体は子育て世代は非常に多くなっているので、その人たちがもう一步、博物館に入って利用してもらうためにはどうしたらいいか考えたときに、何か講座を行って、この館に対して親しみを持っていてもらうということが大切だろうというふうに考えました。

そこでこういった未就学児向けの講座を保護者の方と一緒に参加してもらおう。ここは歴史博物館で、未就学児のお子さんたちに歴史の話をしてもなかなか難しいところがあるので、身近な素材として公園にあるものを使って、それを材料とした工作教室をしてはどうかということで企画をしているものでございます。特にどんぐりのほうは、やはりお申込みを毎年多くいただいております、例年3倍から4倍ぐらい申込みをいただいているところです。今は、単発の講座として行っていますが、継続的に多くの方に利用していただけるように、様々な取組をこれからも行っていきたいと考えているところです。

【委員D】 ありがとうございます。

【議長】 委員B、よろしいですか。

【委員B】 はい、ありがとうございます。この博物館は、幼児から高齢者まできちんとカバーできているというのがございまして、特に子育て支援というのでしょうか、そういう部分にも着手している。多分23区では珍しい博物館ということでございますので、注目しております。

それと同時に、先ほど説明があったように、この系統の博物館ですと、どうしても利用者層がある特定の年代に偏るのですね。特に働き盛りの男性と、それから子育て中の女性の利用率が非常に低くなるというようなことがありまして、そこをどうにかカバーするのということ、ここ数年努力されてきているので、今後の成果がどのように「見える化」するかということが非常に注目される場所かなと思っております。

【議長】 それでは、ほかにご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

今日、本当に大変重要なご指摘をたくさんいただくことができまして、特にSNSやホームページ、情報共有の仕方など、非常に大切なご意見をいただきました。先ほどの北区ニュースに特設コーナーをとというのも非常に重要だと思いますし、より北区民、地域の方々に情報を分かりやすく伝えて共有する仕組みを工夫したほうが良いというご意見が今日は多かったように思いますので、ぜひ検討いただければというふうに思います。ありがとうございます。

それでは、いただいたご意見をぜひ検討していただいて、同時に働き方改革も念頭に置いていただきながら、倒れないような形でぜひ意見を活動のほうに結びつけていただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、司会をお返しいたします。

【事務局】 委員の皆様、様々なご意見いただきまして大変ありがとうございました。

それでは、最後に館長よりご挨拶申し上げます。

【館長】 委員の皆様、長時間にわたりまして活発なご意見、ご議論いただきまして本当

にありがとうございました。

先ほど会長から本日の会議の議事の取りまとめをしていただいたので、私のほうからはあえて申し上げることはございませんが、結論から申し上げますと、やはりまだまだ博物館のいいところ、素晴らしいところを周知が足りないのかなと。どのようにして北区飛鳥山博物館に利用者呼び込んでいくのかというところがやっぱり肝になるのかなというふうに思っております。

本日いただきました貴重なご意見を、ぜひ今年度の事業活動に生かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

また、今、大変新型コロナ等が拡大しているというところで、本日も対面にするのか、リモートにするのか、いろいろ迷ったところではありますが、こういった委員の皆さんと顔を合わせて様々なご意見をいただくというのは、やはりよかったなというふうに思っております。ぜひ委員の皆様もお体のほうを十分ご自愛いただいて、また昨日から大変暑くなってきました。熱中症のほうもかなり危険なこともございますので、ぜひお一人お一人お体を大事にしていきたいと思えます。

この後は、お時間がある委員さんにおかれましては、ぜひ1階の常設展示場、今は常設展示場のほうでも特別展示をやっておりますので、ぜひご覧いただいておりますので、ぜひご覧いただいておりますので、ぜひご覧いただいておりますので、ぜひご覧いただいております。

本日は長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。

【事務局】 それでは、以上をもちまして第1回運営協議会を終了させていただきます。

次回の開催でございますが、年明け2月か3月ぐらいに開催をさせていただきたいと考えております。日程につきましては、会長、副会長と調整をさせていただきましたうえで、また決まりましたら、委員の皆様にご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は大変ありがとうございました。

皆様お忙しいかと思いますが、もしお時間の大丈夫な委員の方いらっしゃいましたら、休憩をはさみまして、展示室のご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。